アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル　愛南町出身のkikuさんが綴るふるさとエッセイ

ーあいなん音故地新ー　「謹賀新年～2020年～」

明けましておめでとうございます。2020年が愛南町にとって、皆さんにとって発展と前進の年になりますように。私は今年も夢と目標を持って挑戦、失敗、成長を繰り返そうと思う。そして「価値」にとらわれることなく自分の信じた道をまっすぐに進んでいこうと思う。誰かや何かと比べることで出てくる「価値」。生きていく上でこの有る無しは人に最も必要のないラベルやと思っとる。昨年の終わりに、大事な友人もこの「価値」で苦しんだ。少し前の自分を見とるようやった。人は誰しも唯一無二。誰かと自分を比べる必要なんてまったくない。あなたはあなた、他の誰もまねすることのできん、素晴らしい才能と個性の持ち主。誰かに何を言われても、みんなと違うと笑われても。「価値」なんて作りものやからね。そんなことに振り回されて傷ついて落ち込んで動けんようになるなんてもったいない。まぁ、こうやって書きながら自分にも言いきかせとるんやけどね、笑。

さて、今年は愛南町で歌い初め。(うれしい!)1月16日㈭の19時から諏訪神社前のRainにて。東京からピアニスト・菅原敏(びん)を迎えて、二人で1時間半ほど演奏する予定。どんな夜になるのか、お楽しみに!!　（テノヒラkiku）

あいなん逸品図鑑 その⑰

逸品図鑑「レモン」

愛媛CATV動画

柑橘農家　小野山 純平(じゅんぺい)さん(御荘平山)

▲御荘平山地区で育てた自慢のレモンを持って笑顔を見せる小野山純平さん。

8年前から父の農地を引き継いでレモン栽培をしている小野山純平(じゅんぺい)さん。今年は秋ごろの天候が悪く、出来を心配していましたが、丹精込めて栽培したことで「大変味も濃くて良いレモンができた」と自信を見せます。

夏のイメージがあるレモンですが、収穫作業は10月から年明け1月ごろにかけて行います。栽培に関する苦労は多く、「寒さや風に弱く、雪が降ったり霜が降りたりすると収穫量が減ってしまう」と言い、防風ネットを設置するなど対策を施しています。

レモンは料理に幅広く使えるため、「近所の人たちに配ると喜んでもらえる」と話し、それがやりがいにつながっています。「まだ町内に生産者が少ないが、収益面でも期待できる品種。これからもっと広がっていけば」と、今後の産地としての規模拡大を期待していました。

▲12月ごろに旬を迎えたレモンが収穫時期を迎えたわわに実っています。